

3世代が繋ぐ、背広の浪漫
ツキムラ物語

奈良の町で、親から子へと繋いでいった「洋服店」。そのタスキを受け取った現社長 岸伸彦氏の記憶と共にツキムラの軌跡、そしてこれからご紹介していくコーナーです。



岸社長

PRODUCED BY TUKIMURA

ツキムラの歩み

時代背景

1976年	岸伸彦氏高校卒業	ロッキード事件、アニメ「ドカベン」が放送開始
1979年	街商より店頭現金スタイルに切り替え	ウォークマンがソニーから新発売
1981年	二代目岸馨氏逝去、岸伸彦氏が結婚	チャールズ皇太子とダイアナ妃が結婚
1984年	イタリアへ渡航	CDプレーヤーが発売開始
1985年	JR奈良駅付近土地区画整理のため立退き問題	日航ジャンボ機が墜落
1990年	株式会社ラガゾット誕生	平成天皇が即位

前回までのあらすじ

大正14(1925)年、奈良町の一角で創業された「ツキムラ洋服店」。その3代目として生まれた岸氏。幼少期に、父と一緒に顧客回りをし、父親の姿に「大人の男」として憧れを抱いた。中学生の頃、父が病に倒れてしまふ。

少年から大人へ
イタリアで誓った
ラガゾット設立への想い

病に倒れた父の代わりに、高校生になった岸少年は女手ひとつで店を切り盛りする母親と2人3脚で、顧客回りをするようになった。父親を病院へ送り迎えする傍ら、水泳部で部長として活躍していた岸少年。大会で入賞する程の実力とあって、奈良商業高校時代は「女の子からもチャホヤされて、良い時代だった」と笑う。水泳部を引退する際には、後輩の女の子から、その頃流行った歌謡曲「好きよキャブテン」の大合唱で送り出された。だが、高校生活を謳歌していた岸氏は、「もうひとつの顔」を併せ持っていた。

上の写真は、街商から店舗販売へ移行するためリニューアルオープンをした1979年のJR奈良駅前店。その店前でやる気に満ち溢れる表情を浮かべる岸氏。



1945年頃先代社長

小康を得た父と岸氏は、旧国鉄の駅構内でスーツの注文を取っていた。商いの途中、ふと向こうを見遣ると、帰宅途中の友人が近づいてくる。「気づかれましたまう!」。咄嗟に姿を隠した。制服の第2ボタンをせがまれ、水泳部の部長として颯爽と花束を受け取った卒業シーンは、まだ記憶に鮮明だ。そんな自分が、今や風呂敷を担いで商売をしている。奈落の底に落ちてしまったのかも知れない……。

それから「カウンターのあある店で対面販売がしたい」という夢を抱くようになった。店頭販売用のチラシばかり配って逃げていた岸氏に、「今日のための商売をしる」「現実逃避をするな」と父親から叱責が飛ぶ。

当時は、先に服を作った後でお金を回収をする「掛け売り」で販売してい

た。だが、身銭を切って商売し、回収をするというリスクと手間はなくしたい。そう考えた岸氏は「現金を貰わないと服を売らない」という今では当たり前のスタイルに店の仕組みを変えた。その代わり値段を安くし、お店で売る。これが当たり、来店者が増加し売り上げも急増。その時「企画をすることの面白さがわかった」と岸氏。成功への萌芽を見届けてほどなく、二代目の父が逝去。岸氏が本格的に「ツキムラ」を担っていくことになった。

売り上げも順調に伸び始めた頃、岸氏は27歳で初めて渡伊する。イタリアでは、商社の配慮でガーデンパーティに招待された。初めてのパーティに、期待で胸を躍らせたもののつかの間、すぐ居たたまれない思いにもなされた。「本物」を目の前にして、実用性重視のスーツを着ていた自分がとても恥ずかしかった。せつかく招待されているのだからと思ったが、一生懸命覚えていった英語も自信がなかったからか、全く使えなかった。この時少し心が折れましたね(苦笑)」と振り返る。

「負けて帰ってきた」。その悔しさを糧に「イタリアでも負けないスーツを」との決意は揺るぎなきものになった。デザイン、語学、貿易を猛勉強し、自分で貿易が出来るようになった頃、「イタリアから持ち帰った新しいパターンのスーツをメインに取り扱った店を作ろう」と思い立つ。1990年株式会社ラガゾット(書二才)を設立。失いかけていた自信が、戻りつつあるのを実感していた。

(次号へ続く…)